年度からは、ラマトン遺跡からさらに遼寧省西地区の三燕都城関連遺跡出土品へとテーマを発展させ、新たな共同研究を開始します。新しい研究テーマに即して、7月1日にあらためて両研究所間の協定書を調印しました。

漢長安城桂宮出土遺物の調査

奈文研と中国社会科学院考古研究所は、漢長安城桂宮の共同発掘調査の成果として、報告書作成作業を進めつつあります。その考察部分を検討するため、平城宮跡発掘調査部から2名が、6月17日より7月6日まで、考古研究所西安研究室で桂宮出土遺物の調査をおこないました。今回の調査では、中国側の積極的な協力により、この他に、西安市文物保護考古所、陝西省陽陵博物館、陝西省歴史博物館、咸陽博物館、茂陵博物館で同時代の関連資料の観察もおこないました。

おかげで貴重な成果を得たのですが、それに加え、中国側の若手研究者とこの成果について、大いに議論する機会を持つことができました。学問の伝統が全く異なる両国の研究者による議論は尽きることなく続き、互いに大きな刺激となりました。この刺激が、学術交流の成果として、いずれ大きな実を結ぶことを予感させてくれます。

桂宮出土遺物調査風景

発掘調査の概要

興福寺中金堂の調査（平城第325次）

すでに調査終了予定を大幅に超過していますが、着々と成果があがりつつあります。

南面階段は前号で紹介した通りの変遷が確実になりました。そして、五間階段に改造されたときに埋められた部分の調査から、現在基壇周囲で検出している凝灰岩切石や玉石敷きは、五間階段への改造に伴う可能性が強く、創建期は基壇の外にバラスが敷かれていたであろうことなどが判明しました。また、東西の階段は、創建期には一間幅であったことが明らかになり、中金堂創建の時期の議論にも一石を投じることになりそうです。

興福寺中金堂発掘現場の全景（東南より）

礎石

五間階段への改造の時期の問題など、課題も多く抱えていますが、一つ一つ解決していきたいと思っています。

南面階段（創建期）

長屋王邸の調査（平城第329次）

今年の夏現場班の発掘調査は、長屋王邸の調査から始まりました。調査地は長屋王邸の内郭西南部分に相当します。6月26日から7月12日まで210㎡の発掘調査をおこない、大型の掘立柱穴5基、掘立柱南北塀3列、自然流路などを検出しました。大型